

指標・目標値の検討について

1 検討の方向性

(1) 検討の趣旨

- ・ 来年度に、次期「京都観光振興計画」（仮称）（以下「次期計画」という。）策定のための議論を控えている。
- ・ あるべき指標・目標値の詳細は、次期計画の「目指す姿」や「施策の軽重」等の議論と連動する形で検討していくが、今年度は、来年度の議論に向けて、あらかじめ協議を行うもの。

(2) 検討の視点

- ・ 検討に当たっては、現計画の指標・目標値（資料 2－1、資料 2－2）も参考に、①市民、観光客、観光関連事業者・従事者の各者に関する視点、②観光振興の前提として、観光の安心・安全、危機対応に関する視点、③M I C E 振興の視点を重視し、有効に機能している指標は継続することも含め、幅広く御意見をいただきたい。
- ・ なお、計画の指標以外の観点からも、把握が必要なデータ等の御意見があれば、事業実施の参考とするため、併せて頂戴したい。

※ 現計画では「市民生活への影響」として「混雑を経験し迷惑した市民の割合」等の市民の主観を中心に指標を設定している（指標 No1～5）。

引き続き当該項目を指標に位置付けていきたいと考えているが、指標の議論にかかわらず、混雑状況等の定量データの把握にも可能な限り努める予定。

2 検討の進め方

- ・ 第 7 回マネジメント会議（R6.9/10 開催）では、指標に関する協議を、第 8 回マネジメント会議（R6 年度末開催予定）では、目標値に関する協議を行う。